

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 福岡県知事賞

「 どしゃさいがいのニュースを見て 」

福岡県 志免町立志免東小学校 2年 <sup>けんじょう</sup>権丈 みなみ

「さかのこうえんの近くの川がはんらんをおこしました。」

アナウンサーが言いました。それを聞いてわたしははっとしました。それは行ったことのあるこうえんだったからです。テレビには町が水びたしになっていたり、山がくずれて家がながされたりしているのがうつっていました。わたしのところもなったらいやだなあこわいなあという気持ちになりました。どうしてどしゃさいがいがおこるのかをお母さんに聞いてみると、地きゅうがあたりたかくなって、たくさん雨がふるからじゃないか、と教えてくれました。地きゅうがあたりたかくなることをおんだんかというそうです。おんだんかという言葉をはじめて聞いたので、地きゅうおんだんかについてしらべてみました。すると人間が出す、おんしつこうかガス（CO2）がげんいんだとわかりました。CO2をへらすためにわたしになにができるか考えてみると、うら紙をつかったり牛にゆうパックをリサイクルしたら、木をまもることができると思います。ほかには、こまめにでんきをけしたり、つかっていないコンセントはぬいたりして、でんきをせつやくすることもCO2をへらすことにつながります。わたし一人の力では、地きゅうおんだんかをくいとめることはむずかしいかもしれないけれど、世界じゅうの一人一人が小さなことをしんけんに行っていけば大きな力になるので、わたしは今日からやっていきたいです。

どしゃさいがいのニュースでは、「いのちをまもる行どうをとりましょう。ハザードマップをかくにんしましょう。」と言っていたので、家ではじめてハザードマップを見せてもらいました。するとわたしの家のちかくに川やがけや池があって、ぜったい安心とはいえないことがわかりました。だから、日ごろから天気よほうを見て、ひなんしてくださいといわれたらすぐひなんできるようにしておきたいです。